

第3検討部会 会議録

会議の名称	第3回 第3検討部会
開催日時	平成19年9月18日(火) 18時30分から20時40分
開催場所	川口市職員会館 講座室B
出席者	(部会長)佐藤副委員長 (委員)佐々木委員、増田委員、松本委員、阿部委員、浅羽委員、伊田(清)委員、鈴木委員、森委員
会議内容	・川口市における市政運営(行政経営)の全体像 ・ワークショップ
会議資料	・川口市における行政経営の全体像 ・行政経営システムの全体像 ・ワークショップ資料 ・ふりかえりシート
発言内容	<p>1.川口市における市政運営(行政経営)の全体像 (NRIより説明) (佐藤部会長より説明)</p> <p>(以下質疑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行政組織だけでは地域課題に対応することが困難になり、全般的に立ち行かなくなってきた」とあるが、どういう意味であるか。 税収の落ち込みなど、予算制約の中で、地域課題は高度化・複雑化してきており、行政組織だけで全ての課題に対応することができなくなってきたということである。NPO等の地域主体との連携が不可欠となってきた。 ・行政が立ち行かなくなってきたという現象は理解できるが、重要なのは、なぜ立ち行かなくなってきたかである。その説明がなければ課題解決にならない。また、行政が立ち行かなくなってきたからNPO等の地域主体と連携していくというのも、短絡的であると感じる。 行政組織が立ち行かなくなってきたのは、複雑な要因が絡み合っている。今後一つ一つ紐解いていかなければならない。 ・「総合計画は選択と集中がしづらい構造となっている」という説明があったが、総合計画はどのようなプロセスで決められているのか。 総合計画は、従来は既存事業や施策の積み上げで作られることが多く、そのため優先順位の考え方や、何かの事業を廃止する、といった発想はあまり見られなかった。しかし、川口市では昨年度の改訂基本計画策定において、外部環境の変化を分析し、また既存事業の評価結果を参考にしながら選択と集中を目指した計画策定を行っている。

・川口市だけで行政経営を改善したとしても、国や県とのかかわりの中で決められていることが多く限界があるのではないかと。国や県との係りについて知りたい。

現在三位一体改革を中心とした地方自治・自立に向けた取組が進められている。国や県とどのような関係があり、どのようなことが問題となっているのかについても情報共有する必要がある。

・市のビジョンや計画は、誰がかじとりをしているのか。

市の計画等の最上位に位置するのは総合計画の「基本構想」であり、基本構想は議会の議決が必要なものである。その点では、議会が重要な役割を担っていると言える。一方で、施策や事業は行政組織が立案し、議会がその予算を審議・承認するという意味では首長の役割が大きい。

・大きな環境変化が生じた場合、10年という長期間の基本構想は時代に合わなくなるのではないかと。また、市長が交代した場合どうなるのか。

基本構想は大きな方向性を示すものであり、市長の公約については具体的な施策や事業に反映していくのが一般的である。ただ、大きな方向性レベルで市長のビジョンとのギャップが大きい場合は作り直す場合もある。

2. ワークショップ

(佐藤部会長より説明)

(以下ワークショップで検討された「今後のテーマ」)

総合計画のあり方・問題点(1 番目に検討)

予算編成・財政状況(2 番目に検討)

- ・ 予算編成・決算のあり方・課題
- ・ 財政収支の現状・問題点

行政経営に対する市民参画のあり方(3 番目に検討)

- ・ 行政経営に対してどのように市民は参画するのか
- ・ 市民の声を吸い上げ・活用する仕組みについて
- ・ 情報公開のあり方
- ・ 市民自身の意識改革を進めるためには

議会のあり方・課題(4 番目に検討)

組織人事改革(5 番目に検討)

- ・ 職員の意識改革を進めるためには
- ・ 組織や人事評価のあり方

意思決定の仕組み(6 番目に検討)

- ・ 行政内部の意思決定の仕組み・課題
- ・ 国や県との関係性

	1 番目は 9 月に検討し、2 , 3 番目は 10 月、4 , 5 番目は 11 月、6 番目は 12 月初旬に検討することとする。		
次回以降日程	第 4 回 9 月 29 日 (火) 18 : 30-20 : 30 第 5 回 10 月 18 日 (木) 18 : 30-20 : 30 第 6 回 10 月 27 日 (土) 18 : 30-20 : 30		
会議録署名	部会長	会議録署名人	会議録署名人